

『新版 経絡経穴概論』

第1刷から第2刷に伴う変更点

ページ数	変更箇所	変更前	変更後
v	「(社)東洋療法学校協会 教材研究部 教科書委員会(平成20年度)」26行目	新潟リハビリテーション	新潟リハビリテーション
ix	「2. 国際標準化への歩み」2行目	韓国では1951年に国民医療法が成立して漢医師(東医)の身分が制定され、	韓国では1951年に国民医療法が成立して漢医師(現在は韓医師)の身分が制定され、
xii	「1章 経絡・経穴の基礎」20行目	4)取穴法	4)取り方(取穴法)
xii	「1章 経絡・経穴の基礎」24行目	②榮(栄)穴／12	②榮穴／12
7	「1)腧穴について」8行目	奇 穴：十四経脈上になく名称、部位、主治症が定まっている。	奇 穴：十四経脈になく名称、部位、主治症が定まっている。
8	項目見出し 18行目	4)取穴法	4)取り方(取穴法)
9	表1-2 骨度法 「上肢」1段目	手指尖～手関節横紋	中指尖～手関節横紋
12	「(2)五腧穴・五行穴」3行目	井穴、榮(栄)穴、腧穴、経穴、合穴があり、	井穴、榮穴、腧穴、経穴、合穴があり、
12	「(2)五腧穴・五行穴」6行目	榮穴は榮穴とも書かれることから本書では榮(栄)穴とする。	榮穴は栄穴とも書かれるが、本書では榮穴とする。
12	「(2)五腧穴・五行穴」11行目	②榮(栄)穴	②榮穴
12	「(2)五腧穴・五行穴」12行目	榮(栄)穴は脈気が溜(しな)るところ、	榮穴は脈気が溜(しな)るところ、
13	(5)見出し 8行目	(5)八脈交会穴(別名：八総穴、八宗穴)(表1-9)	(5)八脈交会穴(別名：八総穴、八宗穴)(表1-9)
14	「(6)交会穴」3行目	足の少陽胆経が交わる	足の少陽胆経、足の厥陰肝経が交わる
25	「記載方法」2行目	①本書の部位ならびに取り方(取穴法)は、WHO/WPROの2008年10月末時点	①本書の部位ならびに取り方(取穴法)は、WHO/WPROの2010年3月時点
34	「脳戸」2行目	外後頭隆起の上際の陥凹中	後正中線上で、外後頭隆起の上際の陥凹中
38	「水溝」2行目	前正中線上で、鼻中隔直下と上唇結節との中点に取る。	前正中線上で、鼻中隔直下と上唇結節上縁との中点に取る。
38	「兌端」1行目	顔面部、上唇結節の中点。	顔面部、上唇結節上縁の中点。
46	「中庭」1行目	前胸部、前正中線上、胸骨体下端。	前胸部、前正中線上、胸骨体下端の中点。
58	「魚際」項目見出し	LU10 (肺経の榮(栄)火穴)	LU10 (肺経の榮火穴)
60	「経脈の流注」1～2行目	示指外方をめぐって、	示指外縁をめぐって、
60	「経脈の流注」4行目	肩を上り、大椎に出る。大椎から大鎖骨上窩を下り、	肩を上り、[大椎]に出る。[大椎]から大鎖骨上窩を下り、
62	「二間」項目見出し	LI2 (大腸経の榮(栄)水穴)	LI2 (大腸経の榮水穴)
66	「肘髁」2行目	上腕骨外側上顆上際の前 <u>方</u> に取る。	上腕骨外側上顆上際の前縁に取る。
74	「承泣」1行目	瞳孔の直下	瞳孔線上
74	「巨髁」1行目	瞳孔の直下	瞳孔線上
78	「欠盆」5行目として(文字の追加)		*肺尖部に近い欠盆をはじめ、胸背部の経穴の刺激には気胸を起こさないように注意を要する
84	「髀関」2行目	恥骨結合下縁の高さに取る。	大転子頂点の高さに取る。
88	「豊隆」2行目	前脛骨筋の外側縁に取る。	前脛骨筋の外縁に取る。
90	「内庭」項目見出し	ST44 (胃経の榮(栄)水穴)	ST44 (胃経の榮水穴)
90	「内庭」1行目	足背、第2・3足指間、みずかきの近位、赤白肉際。	足背、第2・3足指間、みずかきの後縁、赤白肉際。
94	「大都」項目見出し	SP2 (脾経の榮(栄)火穴)	SP2 (脾経の榮火穴)
94	「大都」1行目	第1中足指節関節の遠位内側陥凹部	第1中足指節関節の遠位陥凹部
96	「血海」3行目	大腿神経(前枝)	大腿神経(前皮枝)
98	「箕門」5行目	大腿神経前枝	大腿神経(前皮枝)
108	「少府」項目見出し	(心経の榮(栄)火穴)	(心経の榮火穴)
112	「前谷」項目見出し	(小腸経の榮(栄)水穴)	(小腸経の榮水穴)
112	「前谷」4行目(アスタリスクを削除して前の行のうしろへ)	*表裏の境目にあたる。	表裏の境目にあたる。
112	「後溪」4行目(アスタリスクを削除して前の行のうしろへ)	*表裏の境目にあたる。	表裏の境目にあたる。
112	「陽谷」5行目	尺骨動脈(背側手背枝)	尺骨動脈(背側手根枝)

ページ数	変更箇所	変更前	変更後
114	「養老」4行目	尺骨動脈(背側手背枝)	尺骨動脈(背側手根枝)
114	「肩貞」2行目	腋窩横紋の後端の上方1寸,	腋窩横紋後端の上方1寸,
116	「曲垣」1行目	肩甲部, 肩甲棘の内側上方にある陥凹部.	肩甲部, 肩甲棘内端の上方陥凹部.
124	「天柱」1行目	僧帽筋外側の陥凹部.	僧帽筋外縁の陥凹部.
136	「委陽」6行目として(文章の追加)		* 深部に総腓骨神経が通る.
148	「足通谷」項目見出し	(膀胱経の榮(栄)水穴)	(膀胱経の榮水穴)
150	「経脈の流注」2~5行目	舟状骨粗面の下に出て内果の後「太谿」をめぐり, 分かれて踵に入る. 下腿後内側, 膝窩内側, 大腿後内側を上り, 腹部の前正中線外方5分, 胸部では前正中線外方2寸を上り, 本経と合流する. 本経は, 脊柱を貫いて, 腎に属し, 膀胱を絡う.	舟状骨粗面の下に出て内果の後「太溪」をめぐり, 分かれて踵に入る. 下腿後内側, 膝窩内側, 大腿後内側を上り, 体幹では腹部の前正中線外方5分, 胸部では前正中線外方2寸を上り, 本経と合流する. 大腿後内側で分かれた本経は, 脊柱を貫いて, 腎に属し, 膀胱を絡う.
152	「然谷」項目見出し	(腎経の榮(栄)火穴)	(腎経の榮火穴)
152	「水泉」3行目	伏在神経,	伏在神経・
154	「交信」2行目	復溜の前方,	復溜の前方5分,
156	「気穴」3行目	肋間神経(前皮枝),	肋間神経(前皮枝)・
162	「彘中」4行目	鎖骨上神経,	鎖骨上神経・
168	「劳宮」項目見出し	(心包経の榮(栄)火穴)	(心包経の榮火穴)
168	「中衝」3行目	中指, 爪甲角から近位外方1分(指寸),	中指, 末節骨桡側, 爪甲角から近位外方1分(指寸),
172	「関衝」1行目	爪甲尺側縁の垂直線と	爪甲尺側縁の垂線と
172	「液門」項目見出し	(三焦経の榮(栄)水穴)	(三焦経の榮水穴)
172	「中渚」1行目	手背, 第4, 第5中手骨間,	手背, 第4・第5中手骨間,
176	「肩髃」1行目	肩周囲部,	肩上部,
180	「糸竹空」3行目	眼神経(三叉神経第1枝),	眼神経(三叉神経第1枝)・
182	「経脈の流注」3行目	外眼角より分かれた支脈は, 大迎へ下り	外眼角より分かれた支脈は, [大迎]へ下り
184	「頤厭」1行目	頭部, 頭維と曲髻を結ぶ曲線上,	頭部, 頭維と曲髻を結ぶ(側頭の髪際に沿った)曲線上,
184	「懸顙」1行目	頭部, 頭維と曲髻を結ぶ曲線上の中点.	頭部, 頭維と曲髻を結ぶ(側頭の髪際に沿った)曲線上の中点.
186	「懸釐」1行目	頭部, 頭維と曲髻を結ぶ曲線上,	頭部, 頭維と曲髻を結ぶ(側頭の髪際に沿った)曲線上,
188	「頭竅陰」3行目	乳様突起底の後上方で,	乳様突起の後上方で,
188	「完骨」2行目	乳様突起基底部の後下方陥凹中に入る.	乳様突起の後下方陥凹中に入る.
188	「陽白」1行目	瞳孔の直上	瞳孔線上
188	「頭臨泣」1行目	瞳孔の直上	瞳孔線上
190	「目窓」1行目	瞳孔の直上	瞳孔線上
190	「正営」1行目	瞳孔の直上	瞳孔線上
190	「承靈」1行目	瞳孔の直上	瞳孔線上
192	「肩井」4行目	副神経,	副神経・
194	「居髃」項目見出し	居髃 GB28	居髃 GB29
194	「環跳」1行目	殿部, 大腿骨大転子の頂点と	殿部, 大転子の頂点と
198	「懸鍾」2行目	腓骨の前縁に取る	腓骨の前方に取る
200	「地五会」1行目	第4, 第5中足骨間	第4・第5中足骨間
200	「侠溪」項目見出し	(胆経の榮(栄)水穴)	(胆経の榮水穴)
200	「侠溪」1行目	足背, 第4, 第5指間	足背, 第4・第5指間
204	「大敦」1行目	爪甲角の近位外側1分(指寸), 爪甲外側の垂直線と	爪甲角の近位外方1分(指寸), 爪甲外側の垂線と
204	「行間」項目見出し	(肝経の榮(栄)火穴)	(肝経の榮火穴)
204	「行間」1行目	第1, 第2指間	第1・第2指間
204	「太衝」1行目	第1, 第2中足骨間	第1・第2中足骨間
212	3行目	「Ⅱ. 十四経脈のその経穴」で詳細は述べた.	「Ⅱ. 十四経脈とその経穴」で詳細は述べた.
212	「陽蹻脈」8行目	胃経の地倉・巨骨・承泣,	胃経の地倉・巨髃・承泣,

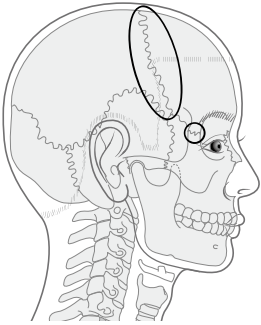
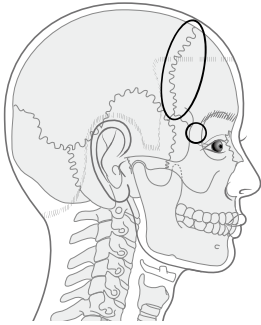
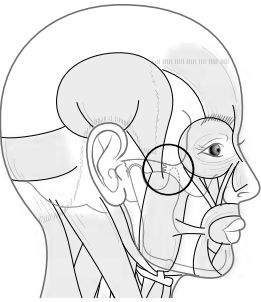
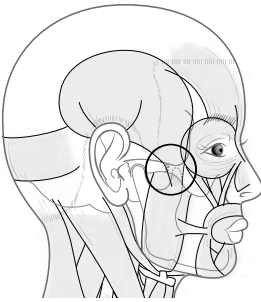
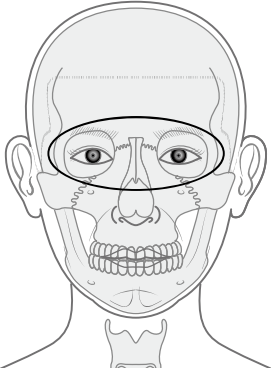
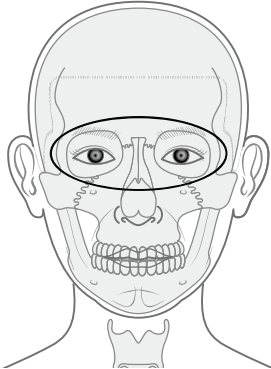
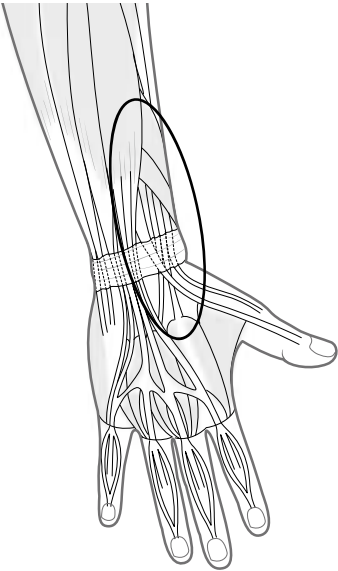
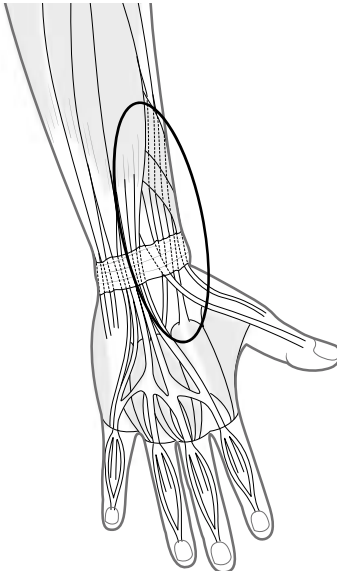
ページ数	変更箇所	変更前	変更後
213	「陰譫脈」3行目	鎖骨上窩にある胃経の欠盆に入って	鎖骨上窩(欠盆)に入って
213	「陽維脈」1行目	陽維脈は膀胱経の金門から起こり、 <u>脾経</u> の後ろをめぐる	陽維脈は膀胱経の金門から起こり、 <u>胆経</u> の後ろをめぐる
222	「四華」1～6行目	患者を直立させ、長い細紐の中央部を督脈の大椎(督脈)にあてて頸に掛け、紐の両端をそろえて前胸部に垂らし、鳩尾(任脈)の部で切断する。この紐の中央部を甲状軟骨の上にあてて背部に回し、下端をそろえて脊柱上にあたる場所に仮点を取る。この仮点に、別の短い紐で、患者の口を閉じさせ一方の口角から斜上方に鼻中隔直下を経て、他方の口角に至る長さを取り、その中央部を前記の仮点にあてて	①患者を直立させ、長い細紐の中央部を大椎(督脈)にあてて頸に掛け、紐の両端をそろえて前胸部に垂らし、鳩尾(任脈)の部で切断する。②この紐の中央部を甲状軟骨の上にあてて背部に回し、下端をそろえて脊柱上にあたる場所に仮点を取る。③この仮点に、別の短い紐で、患者の口を閉じさせ一方の口角から斜上方に鼻中隔直下を経て、他方の口角に至る長さを取り、④その中央部を前記の仮点にあてて
222	「患門」1～6行目	患者を直立させ、長い紐の一端を足の第1指先端に当て、しっかりと踏ませて紐を足底から足根部中央を経て上方に伸ばし、下腿後面正中を上行させて委中(膀胱経)に至ってこれを切る。この紐の一端を鼻尖にあて、頭頸部および背部の正中線に沿って後方に垂らし、その下端があたる脊柱上に仮点を取る。別に短い紐で、患者の口を閉じさせ一方の口角から斜上方に鼻中隔直下を経て、他方の口角に至る長さを取り、その中央部を前記の仮点にあてて	①患者を直立させ、長い紐の一端を足の第1指先端に当て、しっかりと踏ませて紐を足底から足根部中央を経て上方に伸ばし、下腿後面正中を上行させて委中(膀胱経)に至ってこれを切る。②この紐の一端を鼻尖にあて、頭頸部および背部の正中線に沿って後方に垂らし、その下端があたる脊柱上に仮点を取る。③別に短い紐で、患者の口を閉じさせ一方の口角から斜上方に鼻中隔直下を経て、他方の口角に至る長さを取り、④その中央部を前記の仮点にあてて
226	「八風」3行目	足の痛み(脚気、足背痛、足指の発赤腫・しびれ・痛み・捻挫、	足の痛み(脚気、足背痛、足指の発赤・腫脹、
228	「小児斜差の灸」3行目	脊柱を越えて斜めに取り、 <u>小児疾患</u> に有効な施灸点という	脊柱を越えて斜めに取り小児疾患に有効な施灸点という
228	「脚気八処の穴」3行目	* WHO の決定では、	* WHO/WPRO の決定では、
239	「その他」 (3)同音異字異穴(16組) 左1行目	少 海(足の少陰心経)	少 海(手の少陰心経)
239	「その他」 (3)同音異字異穴(16組) 左4行目	極 泉(足の少陰心経)	極 泉(手の少陰心経)
239	「その他」 (3)同音異字異穴(16組) 左9行目	少 府(足の少陰心経)	少 府(手の少陰心経)
239	「その他」 (3)同音異字異穴(16組) 右2行目	少 衝(足の少陰心経)	少 衝(手の少陰心経)
241	表上 上から3段 右から1行目	火	水
242 243	「参考文献」 日本語文献 3)と14)と25)	盲学校理療科用図書編纂委員会	盲学校理療教科用図書編纂委員会

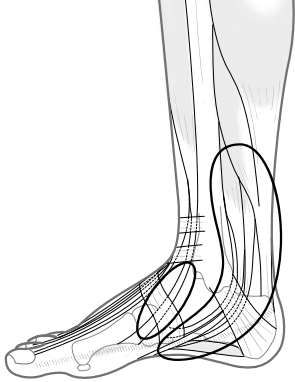
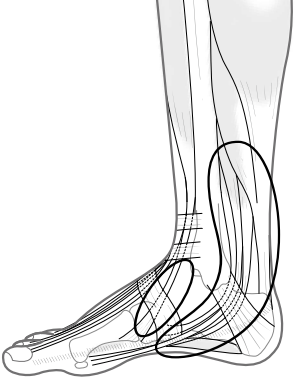
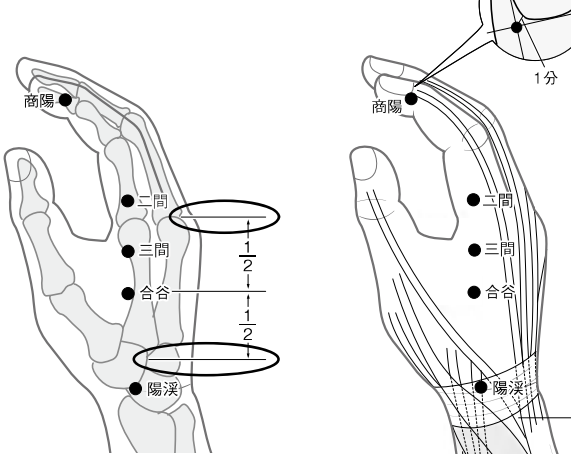
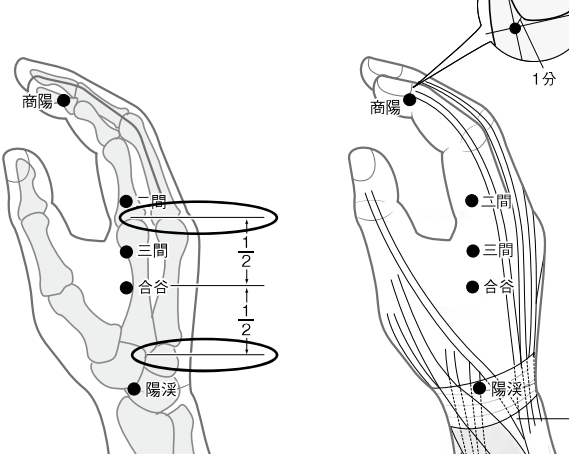
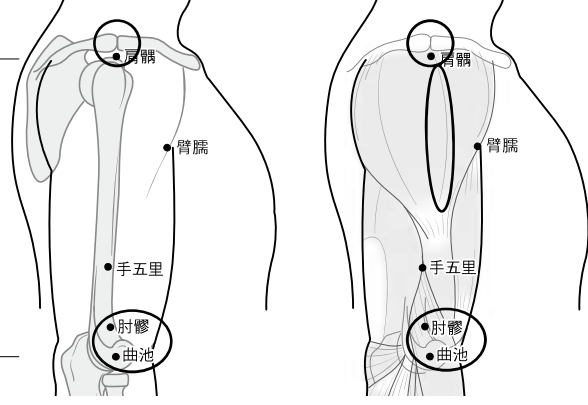
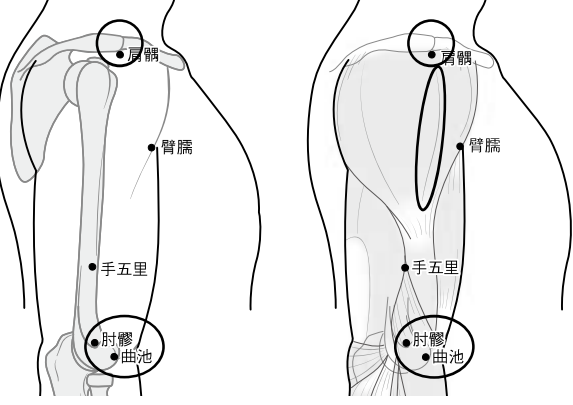
23 頁「3. 体表区分」に次の表を追加しています。

『WHO/WPRO 標準経穴部位』の例(頭部と頸部の体表区分)

区 分	境 界
頭部	頭部 眼窩上縁、頬骨弓上端、外耳上端、頸部上端、および外後頭隆起を結ぶ線
	顔面部 眼窩上縁、頬骨弓上端、外耳上端、乳様突起尖端、および下顎骨下端を結ぶ線
頸部	前頸部 上方：頭部と顔面部の下位境界線 下方：鎖骨 後方：僧帽筋前縁
	後頸部 上方：頭部の下位境界線 下方：第7頸椎棘突起と肩峰を横切る線 前方：僧帽筋前縁

イラスト部分の変更

該当部分	変更前	変更後
すべての側頭部の解剖図(骨格)		
すべての側頭部の解剖図(筋肉)		
すべての顔面部の解剖図(骨格)		
すべての前腕背側の解剖図(筋肉)		

該当部分	変更前	変更後
すべての足部内側の解剖図(筋肉)		
p.63		
p.67		
p.67, p.69, p.177	